

新春

文芸

# 烏山遺跡の玉作資料



土浦市立博物館長  
上高津貝塚ふるさと歴史の広場館長  
茨城大学名誉教授

茂木雅博

市民の皆さま、あけましておめでとうございます。早いもので私が博物館長を拝命して7回目の新春を迎えました。その間、市民の皆さまには温かく見守っていただき感謝に耐えません。

特に昨年本紙で紹介させていただいた武者塚古墳の出土品が一括して、国の重要文化財に指定されました事を、新年の年頭にあたりご報告させていただきます。県内の遺跡から出土した考古資料が重要文化財に指定されるのは51年ぶりであり、さらに発掘調査によって出土した文物が一括指定されるのは茨城県政始まって以来最初であります。

昨春秋にはそれを記念して、上高津貝塚ふるさと歴史の広場で「武者塚古墳とその時代」と題する特別展を開催し、その期間中に記念学術シンポジウムを行い、大変好評で多くの方々にご足を運んでいただきました。

さて今回は、皆さまにあまり知られていない考古学資料を紹介させていただきます。それは烏山遺跡出土の古代玉作関係資料です。花室川に面する丘陵上には多くの古代遺跡が残されて



といし まいぎり  
砥石と舞錐のコマ

おり、昭和47年に茨城県住宅供給公社は烏山団地造成に先立ち、烏山遺跡の事前調査を国土館大学教授大川清先生に委託しました。大川先生は7月、8月という炎天下の中、精密な調査によって200棟を超える古墳時代から奈良・平安時代の住居跡を発見しました。その中には、古墳時代の玉作工房跡や関係資料を出土する住居跡が19棟も含まれており、烏山遺跡が関東地方最大の古代玉作遺跡であることが判明しました。

特に研究史上注目されたのは次の2点であります。

① 操業時期が4世紀中葉から5世紀前半と推定され、それ以降に継続しないこと。

② 『常陸国風土記』に記載された久慈郡玉川産の赤瑪瑙を原料とし勾玉を生産していること。

その後の研究で、この遺跡では材料として瑪瑙の他に碧玉・滑石・粘板岩などが使用され、勾玉のほかに管玉・平玉なども生産され、玉作の未成品や剥片など1000点を超える資料が確認されました。さらに玉作工具として砥石や敲石なども知られ、勾玉の腹部を研磨する内磨砥石は特徴的な形態を有しています。瑪瑙製の勾玉工房としては我が国最古の遺跡です。

さらに市内にはこのほか、おおつ野の八幡脇遺跡、木田余の浅間塚西遺跡からも玉作遺物が発見されています。このことは土浦が古代玉作において中心的な役割を担っていたといえます。

こうした玉作遺跡からは完成品は発見されず、全て未成品と剥片などです。完成品はヤマト政権の元に上納され、全国に配布されたものと想定されます。

しかし、このような玉作技術はこの地に継承されず、6世紀には消滅して全く見られなくなりますが、遠く離れた出雲の玉作技術に散見するようです。

私は密かに、古代土浦の玉作技術が出雲玉作に伝播したのではないかと期待しています。これを正夢にするよう本気で勉強しようと思います。乞うご期待を…。



め の う ま が た ま み せ い ひ ん  
瑪瑙の勾玉未成品

調査中の烏山遺跡(昭和47年10月 森 昭氏撮影)